

幼児教育における特別支援グループ研究会

グループ員：吉村 宏美 (みずほ幼稚園)	貴島 香 (ありおか幼稚園)
渡邊 由紀 (伊丹幼稚園)	中野 真由美 (はなさと幼稚園)
中田 亜子 (稲野幼稚園)	神野 正子 (こやのさと幼稚園)
橋本 真佐江 (南幼稚園)	山本 容子 (せつよう幼稚園)
濱地 磨未 (緑幼稚園)	嶋田 幹子 (すずはら幼稚園)
郷原 里枝 (桜台幼稚園)	花森 恵子 (おぎの幼稚園)
窪田 由利枝 (天神川幼稚園)	野田 アズサ (いけじり幼稚園)
笠井 裕子 (ささはら幼稚園)	京治 慶子 (こうのいけ幼稚園)

担当指導主事：時村 孝完

キーワード：特別支援教育 幼児教育 幼児理解 教材研究 情報共有

1 研究テーマ

「支援を要する幼児への指導・支援について」

2 研究内容

昨年度の成果と課題に基づき、グループ員が互いに意見を出し合い学び合えるよう経験年数やブロックを考慮した小グループで、子ども理解の視点や教員の具体的な支援方法について学び合った。

(1) 事例研究

「様々な遊びの経験ができるための援助」、「集団参加の支援の方法」など、現在支援の仕方に悩んでいる子どもの姿を出し合い、効果的な手立てを話し合った。

(2) 教材研究

「感覚統合遊具のねらいや使い方について」

① 感覚統合遊具の効果や意図について

感覚統合遊具について、文献を抜粋し、読み合わせた。普段の園開放や小集団プレイなどで使用している遊具のねらいや目的、使い方などを改めて学ぶことができた。

② グループごとでのサーキット遊びの配置図作成

小グループごとにサーキット遊びの配置図を作成し、交換しあった。子どもの実態から、ねらいを立て、「何のために」「ここに遊具を置くことで、どんな効果が期待できるか」ということを考え、子どもが楽しみながら取り組めるような課題を考えることができた。また、作成した配置図を交換し合うことで、新たな視点や遊び方を学ぶことができた。

(3) 保護者支援について

年長児の就学に向けて、小学校の支援学級の見学・発達検査・保護者との面談などで、現在保護者の支援の仕方に悩んでいることなど意見を出し合い、情報交換を行った。

(4) 情報交換

記録の取り方や学級担任との連携、周りの子とのかかわり方の支援など、各園の実践や具体的な支援方法について、情報交換を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

グループ員は、各園に一名配置のチューリップ学級担当という立場である。同じ立場で課題を出し合い、情報交換や事例研究、教材研究を行ったことで、担当者としての支援方法について理解を深めることができた。

(2) 課題

支援を必要とする子どもの姿や課題は多岐にわたる。それぞれの子どもの姿に応じた具体的な指導法等について、今後も事例研究等を通して理解を深めていく必要がある。